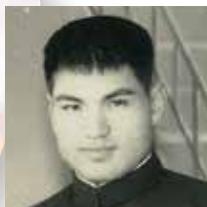


波瀬万丈



クローズアップ
青木壽男 会員

隼人糸東会での青木校友
写真提供／広報霧島

大島郡知名町出身。
昭和41年 東洋大学経済学部卒業。
鹿児島県糸東会会長。
ラジオ体操や5kgの鉄アレイなどで身体を鍛える。教員を14年勤めた後、公益財団法人日本習字教育財団鹿児島事務所長を勤める。
全日本空手連盟公認7段。柔道3段。

鹿児島県の東洋大学・卒業生の人生の軌跡をたどるシリーズ企画「波瀬万丈」が復活しました。第6回目は3年ぶりの復活に相応しい校友、昭和41年経済学部卒の青木壽男会員です。

青木さんは高校時代までは柔道大会で優勝するなど、柔道に深く傾倒し目覚ましい活躍をしておりましたが、東洋大学進学後、空手道に転身しています。東洋大学には繋がりの深い糸東会の師範・岩田万蔵氏の元、空手道の魅力に深く入り込みました。大学卒業後は鹿児島に戻り、教職に就きながら、創設期だった鹿児島県空手道連盟に長年関わり、6代目会長になっています。また自身でも隼人糸東会を運営され、それまでの貢献が認められ「スポーツ指導者等表彰」を受けています。

秋の深まる11月21日、隼人町の青木さんのご自宅を訪問してきました。

教育に師弟同行を貫き
空手道に人生をかけた
不斷の努力の長い道のり



祖父に躊躇られた幼少期

英語に親しむ

沖永良部島は文化レベルの高い人材が多いという話をよく耳にしますが、そういう背景があるのでしょうね。

松下 桑下／先輩の幼少期の頃をお聞かせください。

青木 幼少期の頃、私は叔父に可愛がられておりました。当時は島に米軍基地がありました。叔父は外国関係の仕事していたのでアメリカ人と交流があり、私も彼らに可愛がられチューインガムとか貰ったりしてました。幼な心

で育てられました。兄弟は姉と私の二人でした。そういう状況でしたので母方の祖父からいろいろと教わりました。祖父は礼儀に厳しい人で人間として「礼」の大切さを叩き込まれました。

また父が居なかつたのですから「自分が親父になるんだ」という気持ちで過ごしていました。

当時は履物も満足になく、裸足で3kmほど歩いて小学校に通っていました。

松下 英語とは初耳です。

柔道との出会い

時代になると、米軍基地に行きアメリカ人に来てもらい英会話クラブとか作って勉強していました。

青木 沖永良部中学1年の頃、柔道六段の先生がおりまして「これは是非習いたい!」と思い道場に通うようになりました。毎日の練習で力をつけ沖永良部三道大会(柔道・剣道)



